

きあらひらかわ

～互いに認め、支えあう、男女（ひと）がきらめく平川市～

平川市では、男女の人権が尊重され、性別にかかわらず個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指し、「男だから」「女だから」といった意識にとらわれることのないまちづくりを進めています。



子育てひろば広報紙の一例



子育てひろば情報紙「ほっぺ」

平川市「子育てひろば」

平川市内に8施設ある「子育てひろば」では、園庭の開放や子育て支援サークルの活動援助、育児講座を開催しています。それぞれの施設では毎月広報紙を発行しており、育児相談や子育て中の保護者のサークル活動のお知らせ、子育てに関するワンポイントアドバイスなどを掲載しております。このほか、平川市子育てひろば連絡協議会では年1回、情報紙「ほっぺ」を発行しております。この情報紙は市内公共施設にございますので、ぜひお手に取ってごらんください。施設によってサークルや講座の内容が異なりますので、詳細は各施設へお問い合わせください。情報紙「ほっぺ」については平川市子育てひろば連絡協議会事務局（からたけこども園）までお問い合わせください。

「子育てひろば」開設場所

- いちばん星（こども園あらや内 Tel：0172-44-3170）
- どんぐりこども館（からたけこども園内 Tel：0172-44-8222）
- ひまわり保育館（大坊こども園内 Tel：0172-44-3120）
- こども館（平賀保育園内 Tel：0172-44-3078）
- あおぞら（松崎保育園内 Tel：0172-44-3168）
- げんきっず（はすね子ども園内 Tel：0172-57-3430）
- スマイルキッズ（日の出こども園内 Tel：0172-57-3431）
- ひまわり子ども館（碓ヶ関中央こども園内 Tel：0172-45-2001）





奥入瀬サミット派遣事業報告



令和元年9月28日～30日の3日間に渡って八戸市、十和田市で開催された「奥入瀬サミット2019」に平川市の補助金を活用し、樋口麻紀さんが参加しました。ここでは参加者から提出されたレポートを紹介します。

樋口 麻紀 さん（日沼）の感想

9月28日～30日までの3日間「奥入瀬サミット」が開催され、私は八戸市で開催された1日目と2日目のセミナーに参加しました。

1日目は「私を咲かせる」をテーマに女性の美と健康を考えるセミナーや講演がありました。

セミナーでは今回のサミットの実行委員会会長でもある産婦人科医 対馬ルリ子さんと美容家 吉川千明さんが「100年美しく健やかに生きる女性ホルモン塾」と題し、女性ホルモンや特有の不調・病気についてお話がありました。聞けば聞くほど他人事ではなく、身にまされるお話でした。



続いてはローションパックでおなじみの佐伯チズさんによる講演「HAPPY WOMAN になる秘訣～女性のキャリアとキレイのすすめ～」でした。登場から元気でパワーがある佐伯さんは76歳とは思えない美肌。「顔を触ってもいいよ」と声をかけてくださり、会場には行列が。残念ながら私はあと数人のところで時間切れとなってしまいましたが、間近でみた美肌にはかなりの説得力がありました。講演の中では今までの経歴の中でのターニングポイントや美についてのお話があり、美については「片手間で作らない」「続ける」といったずぼらな私にとっては耳が痛い!?話がいっぱいでした。

翌日は「世界を咲かせる」をテーマに2人の方のステップアップセミナーがありました。

まずはAERA元編集長 浜田 敬子さん。入社時は新聞記者をしていた浜田さんはまさに男性社会の中で働いており、当時の偏見や差別、セクハラなどを乗り越えAERA初の女性編集長となったそうです。特に印象に残ったのは「男性と同じ働き方で結果をだそうとしてしまう。」というお話でした。仕事の仕方＝男性の仕事の仕方になってしまい、それに合わせて女性がいつしか「こうあるべき」と男性側の視点に立ってしまい同じ女性を苦しめていることがあると。そうではなく、女性の視点で働き方を変えていき、新しい仕事の仕方でも価値をだしていくことが大切だと。



2人目はブランドプロデューサー 柴田 陽子さんより、マネージメントや、成功のための思考についてお話がありました。独特の世界観とポリシーそして熱意がある柴田さんの仕事の進め方やマネージメントの仕方には、新たな気づきがたくさんありました。柴田さんの世界に会場が引き込まれ、参加者の中には心動かされ涙する方も。

そのあと、ネットワーキングランチやシンポジウムが行われ2日目は終了しました。

2日間のセミナーは、普段TVで拝見するような一流の方々からお話をきける貴重な機会となり、多くの発見と気づきがありました。「女性活躍推進」とトレンドのように耳にしますが、個人的にはその言葉だけが一人歩きしているようで、あまり好感の持てる言葉ではありませんでした。

ただ今回のセミナーを通じて、考えるきっかけとなり、「女だから」とか「男性に負けたくない」とか意識をしていたのは女性側なのかな。とも思いました。

男性だから女性だからではなく、一人ひとりのその時の状況に合った働き方で結果を出すことが大切だと改めて実感しました。



奥入瀬サミットとは

健康に活躍する女性人材の育成とネットワークづくりをめざし、平成24年度から毎年9月に十和田市などで開催されています。第一線で活躍されている講師による講演・トークセッションのほか、女性の活躍推進に向けたシンポジウムなど、充実したプログラムになっております。

詳しくは公式ホームページ (www.oirase-summit.com) をご覧ください♪

日本女性会議 2019 さの



平川市で参加費用の一部を助成することとしていた日本女性会議について、2019年は10月25日から27日に栃木県佐野市での開催を予定していましたが、台風19号による被害のため、今年度は中止となりました。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

2020年は「かけがえのない”わたし”を生きる～ものづくりのまちから発信～」をテーマに、愛知県刈谷市で開催されます。詳しい内容は刈谷市ホームページをご覧ください。



日本女性会議とは

全国から約2,000人の参加者が集い、男女平等参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とした国内最大級の会議です。1984年に第1回大会が開催され、2020年で37回目の開催となります。

「きあらひらかわ」について

「きあら (chiara)」はイタリア語で「光り輝くもの」「よろこびをもたらすもの」を意味します。平川市男女共同参画推進プランの基本理念である「互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市」のとおり、輝く未来を見つめながら性別にかかわらず一人ひとりがお互いを認め、自分らしさを十分に生かせる平川市をめざしたいという願いを込めています。

DV（ドメスティック・バイオレンス）と児童虐待

—DVは子どもの心を壊すもの—

DVと児童虐待の関係

DVが起きている家庭では、子どもに対する暴力が同時に行われている場合があります。子ども自身が直接暴力を受けている場合は当然ですが、子どもの見ている前で、夫婦間で暴力をふるうこと（面前DV）は子どもへの**心理的虐待**にあたります。また、DV被害を受けている人は、加害者に対する恐怖心などから、子どもに対する暴力を制することができなくなる場合があります。


DVや児童虐待によって、家族間の信頼関係が崩れていくこともあるのです。

※DVとは主に「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」を指します。

DV（ドメスティック・バイオレンス）相談窓口

DV相談ナビ

※お近くの相談窓口におつなぎします。

ここに でんわ
 **0570-0-55210**

相談や連絡に関する秘密は守られます。

DV被害に
悩んでいる方
まずは相談を！

DV被害に悩ん
でいる方を見か
けた方
相談先を教えて
あげて！

児童虐待 相談窓口

児童相談所

全国共通ダイヤル

いちはやく



189

通告・相談は、匿名で行うこともでき、
通告・相談した人、その内容に関する秘密は守られます。

児童虐待に気づ
いたときは
すぐに連絡を！



平川市ではDV被害者支援に関
しては福祉課、児童虐待に関し
ては子育て健康課が窓口となっ
ております。ご相談は平川市役所
0172-44-1111 まで。

【発行元】

平川市教育委員会生涯学習課

〒036-0102 平川市光城二丁目 30-1（平川市文化センター）

TEL:0172-44-1221

E-mail:shougaigakushuu@city.hirakawa.lg.jp

